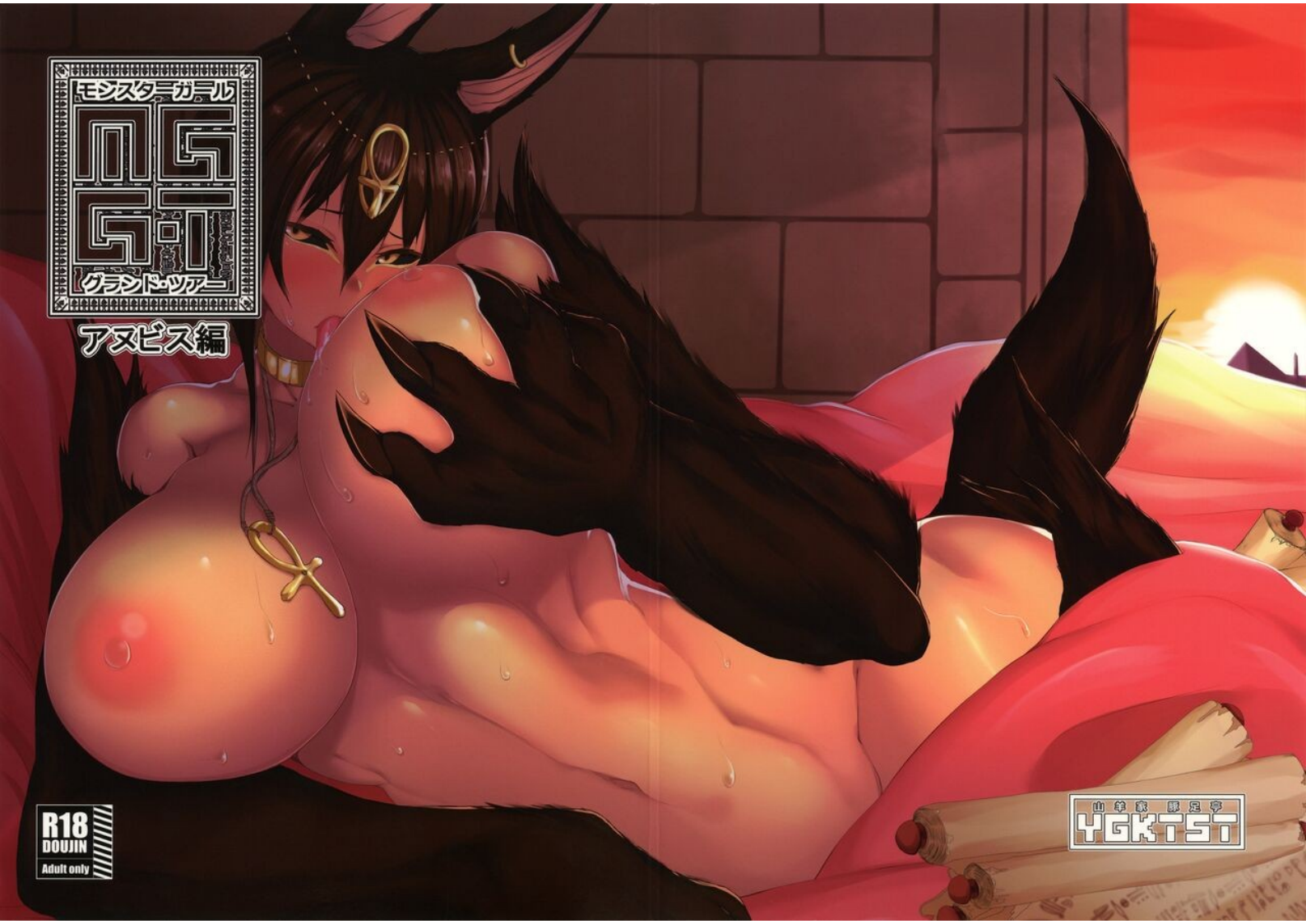
モンスターガール
MG
グランド・ツアー
アヌビス編
R18
DOUJIN
Adult only


モンスターガール
MG
GT
グランド・ツアー
アヌビス編
R18
DOUJIN
Adult only
山羊家豚足亭
YGKTST

ページの都合上こちらがあとがきです…。

皆さんどうも、第二作です。
今回はネームをちゃんと描きましたよ！
前回の反省を生かしつつ着々と
成長しております山羊の豚足です。
今回はイチャラブに挑戦していますが、
自分にはそんな相手がいないため、全て
国産妄想１００％を使用しております。

最近出不精に不安を抱えて外に出たものの
一向にファンタジーでセックスだらけの
異世界に飛ばされません。
やはりこんな妄想過多の危険分子を召喚
する奇特な方はいないようです。
私はこのまま心臓病か脳卒中で天国に
逝ってしまうのでしょうか。
怖くて夜も眠れません。
そんな病気にならないよう僕と同じく
引きこもりの方は人気の少ない夜に
頑張って運動しましょう！

それでは読んで頂きありがとうございます！

山羊の豚足

※大人になるための人生の修行をする旅。主に13歳～15歳に行う事が多い。

ガチャッ
ぶるっ
その神殿の方と言うのは…
このアヌビス様です。
……
アヌビス
主にこの砂漠地帯での墓守、ミイラ作りの神であったが、国は衰退し、ほとんどの遺跡神殿から人がいなくなった今では遺跡そのものをかつての人間の墓として、管理、清掃等を行っている。

オイお前
あまり無理をしなくてもよい
ハ、ハイ？
お前の背ではその書棚は苦であろう
そもそも、他の雑務も別にせんでよい
お前はまだ旅の途中であろう
いやぁ…
恩人ですし、何か恩返しができるならしたいんですよ…
それは理解できるだが
お前は一刻も早く旅を続けるべきだ
ズズッ
わっ
祈ッ

ドーン
お前はまだまだ他で学ぶことがあるはずだろう
は、はい…
あの子は今日はご機嫌ななめだにゃー？
あんな言い方しなくてもよいだろうのに…
何か気に障る事しちゃいましたかね…？
うんにゃ、君はよくやっていると思うがな？あれは…
バステト様…
いつの間に…
バステト
もっと別の問題ニャ。

別の問題…？

身体や、心が、
あの子を求めて
私の薄い皮膚の下で
膨張していく…

何度も何度も、あの子を犯す妄想が
頭の中にあふれ出す…
その度に、無様に疼く私の身体…

あの子が欲しい…
その思いが胸の中で疼き回っていく…

誰かに見初められてしまう前に…
誰かに奪われてしまう前に…
私があの子を奪いたい…

まぁ、君たちで言うところの
発情期
持病みたいなものにゃ

クソッ…
今回のは一段とキツい…っ

あの子の前では
数分で耐えれなくなる…っ

た、大変じゃないですかっ
何か出来ることないか聞いてきますっ
いやっ、君が行くとっ……
……
あー……
バタンッ
タッタッタッ…
まぁ、これもよい薬になるかもしれないからにゃあ…
がんばれ少年…
君が薬役だ。
ハァッ
ハァッ
ハァッ
アヌビス様…！
バッ
ハッ
ハァッ
タッタッタッ

あれ…？
がらん
居ないのかな…？
？
何故
来た
ガシッ
わっ!?
ドカッ
ドサッ
ドカッ
この瞬間
私は本能を抑えていた理性を
破壊した
小さいカラダ…❤
千切れてしまいそうな細い手足…❤
私が守るべきもの…
こんなことはしたくなかったんだ…。
こんな姿を見せずに遠ざけていたかった…
だが、もう我慢がきかない…ッ
お前が悪いんだぞ…ッ
ずしん♥
私を…その匂いで…その体で…誘う…からぁ…ッ
非力で、純朴で、か弱くて…とても可愛い私の…❤
私の大切なもの…
あの子の匂い…❤
私の縄張りにこの子の方から来てくれた…❤
私のもの…
とぷん
ハッ
ハッ
ハッ
ハッ
プシッ
あ、アヌビス様…!?
私を心配してきてくれた…❤
誰にも汚されていない私のオス…❤
私だけのもの…❤

ちょっ!? 冷静になってください…っ

すまないが…少し我慢をしてくれ…っ 少し耐えていればすぐ終わるから…っ

汗…

包茎…

ああ…なんて可愛らしい

未成熟…だが美味そう…

こんなにも香しい雄の香り…

まだ幼い

一度破壊された理性と言う壁はミルクに浸したクラッカーのように脆く、私はもう自分を抑えることなどできずに…

ワタシだけの

これは…ワタシの…

オスだ♥

痴垢が…まるでチーズのよう…

美味しい…っ

駄目だ…冷静さを完全に失ってる…

正気を取り戻そうとしても、口の中に広がるこの子の味にすぐに本能むき出しにしゃぶりついてしまう…

ちゅぱ…♥
口を離せば
そり立った肉棒に魅せられ
…♥
こんなにガチガチにして…っ
オスの匂い…♥
若くて濃厚なフェロモンの風味…♥
私がこうしたのだな…
なら私が鎮めてやるべきだな
……♥
私のために
こんなに必死に
脈を打って…♥
その自分の唾液と
相手の雄の匂いに
先ほどまで自分が
『この子のモノをしゃぶっていたんだ』
と自覚しては、本能の雑音が増していく…
私と交尾するために…
私と言う雌を犯してしまうためにぃ…♥
私はこのオスの性奴隷になりたい♥
このオスに全て差し出して、このオスのつがいになりたい♥
このオスが私の主人♥
か弱くか細くそれでも
この立派なオスが…♥
繋がりたい♥セックスしたい♥交尾したい♥犯されたい♥
犯したい♥嬲ってほしい♥弄らせてほしい♥孕みたい♥
受精したい♥子宮が疼く♥♥♥
ちんぽ欲しい♥ちんぽ欲しい♥ちんぽ欲しい♥ちんぽ欲しい♥
ちんぽ欲しい♥ちんぽ欲しい♥ちんぽ欲しい♥ちんぽ欲しい♥
ちんぽ欲しい♥ちんぽ欲しい♥ちんぽ欲しい♥ちんぽ欲しい♥
ちんぽ欲しい♥ちんぽ欲しい♥ちんぽ欲しい♥ちんぽ欲しい♥

『発情期のせいだ』
そう私は頭の中で
言い訳をした
そう思わなければ
本能に任せて
年端も行かない彼を襲った事実を
受け入れられなかったのだ
きっと目の前のこれを
鎮めれば収まる…
そう思い込んで、
理性は私の頭から
姿を消した
ハアッ
ハッ
ボタッ
ボタッ
ボタッ
ボタッ
ドチュ
ドチュ
ドチュ
ドチュ
ちゅぽ
ちゅぽ
ちゅぽ
ちゅぽ
ボッ
ムッレ

そこからは…
己の身体を全力で
使って、彼に私ができる行為の
快楽を覚えさせようとした
挟んで…
ねじり…
搾り上げ…
彼の心を掴みとろうと
必死になって乳房で奉仕する…
ツガイの雄雌が身体を擦り合わせて
お互いに匂いを付けるように擦りこんで…

そうやってがむしゃらに奉仕し、射精させた世継ぎ汁は…

ハーッ ハーッ

ドクッ

ボタッ…

ドロォ…

熱いな…❤

発情は消える事など無く…色濃く私に爪痕を残す…

ドクッ

ボタッ…

熱く…濃く…私を更に魅了する…

ビチャッ

ビクッ

ネチャッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

…っ

やっちゃった…

どうしよう…

嫌われる…？

いや、そんなことよりまず…

あ…い…

し、失礼しましたっ…
今すぐなにか
拭けるものを用意しますっ…
ここから私と…
『私達』はおかしく
なってしまった…
それからというもの…
僕は暇があれば
アヌビス様を『手伝う』ように
なりました。
トイレ中にも…
小便の匂いと…
昨日の残った精子臭…
熟成されて濃ゆい匂いのせいで
頭がおかしくなってしまいそうで…
んじゅぽっ…ふぉんらにっ
汚くしれっ…じゅぷっ
いけない奴め…ぬぽっじゅちゅるぅ
まるで自分が便器に
されているような屈辱感…
そしてそれに悦んでしまう
雌としての従属欲…
これだけで私の子宮は
疼いてしまっていた…

先っぽを刺激されたかと思えば…

先を刺激し…この子の亀頭に媚びる…

しかし、我慢の利かない犬のような私は…

直ぐに根元まで吸い付かれ…

すぐにでも喉奥まで吸い付いてしまい…

そのまま奥まで搾り取られて…

顔の造作も気にしないひょっとこ顔で…

喜びに振られるアヌビス様の尻尾に誘われるように…

自分が媚びるオスが恵んでくれた精液に尻尾を振って悦び…

数分も持たずに破裂する僕の絶頂は…

それだけで私は恥ずかしくも達してしまいそうになり…

彼女の喉を満たし、胃腸へと精液を流し込んでいきます…

彼の精液を、喉を鳴らしながら胃に落ちていく子種の感触を身体全体で味わっていく…

朝という事もあり射精が途切れる頃…
『来て』しまいます…
そ、そろそろお放しくださいっ…
大事な彼の肉竿…放せるわけなどあるはずもなく…
むごっ…ぐぐぐっ…んぐっ…
お…お願いしますっ！早くっ…
あっ
ジョボボボ
ブビュッ…
ゴボッ…
注がれる僕の汚い尿液をまるでジュースのように流し込んでいき…
注がれる彼の匂うほどに濃い朝一番の小水で喉を潤す…
ゴクンッ
ゴクンッ
喉に染み入る彼のマーキング…
上下に動き飲み干していく喉…

そして…
その開かれた口には

っはぁ…
美味かったぞ…。

ハァ…

何もありませんでした…

胃の中が
いっぱいだ…

ハァ…

湯浴みでも…―

それ…❤

っひゃぁ!?

背中を奇麗にしてやろう❤
こんな事をするのは
おまえだけだぞ…

はい…

どうだ？
気持ちいいか？

はい…

痒くはないか？

…だいじょぶです…

もっと近くに寄れ…上手く洗えないだろう？

クスッ…

はい…すみませ

ひやぁっ

スッ

ゴシゴシ

女みたいな声をあげるなぁ…❤

ううっ

ビチィッ…

シチッ…

もう大丈夫です…

大丈夫ですからぁ…

も、もうご勘弁ください…。

ビクッ

ビクッ

ドクッ

ドクッ

ボクは先に上がりますのでアヌビス様はゆっくり温まってくださっ

おいっ！気を付け…っ

ゴッ

ズッ

…まったく…
お前は危ない奴だ…
ご、ごめんなさい…
おっちょこちょいで危なっかしくて…
これは私が離したらけがをしてしまいそうだな…？
ハァ…ッ
ハァ…ッ
ジュルッ…。
これは勝手にどこかに行かないように…『離れられない事情』を…
作ってしまったほうがよさそうだ…❤
丁度、ここも私と離れたくないと言っておるようだし…な…❤
うっ…あっ…♡
あぅっ…♡
ぐちゅっ♥

私の溶け切った熱々の蜜壺に肉茎を挿入した瞬間に、そんな愚行は理性と共に消し飛んだ
彼は最初は形だけの抵抗を見せていたが…
んちゅ…っ…じゅうくちゅっ…ぢゅるっ❤…れりゅっ…んくうじゅう…ちゅきゅっ❤じゅるっ…❤
…んーっ…ふうん…❤ちゅう…ちゅっ❤
それからは…もうお互いの理性を投げ捨てて…滅茶苦茶に蕩け合っていった
ちゅるっ…にちゅう❤…れぷっ…ちゅう❤
熱い蒸気の中、どちらの汗かも分からず、しばらくはじっと、サウナのような時間を楽しんだ…
っはぁ…はぁ…❤んっ…ちゅう…じゅるるるるっ❤

あんっ♡
ズブ
あはぁぁっ
苦し紛れに一度だけ
抜こうともがいたのか…
しかし目の前の熟れた雌に
抗えずに…
私の一番奥までちんぽを
挿しこんだ瞬間…
わぉんっ
爆発…❤
ドポッ
ブッポポッ
ブピュルッ

んは…あぁ❤
少し早いが…❤
えらいえらい…❤
いっぱい出たな…❤
だが…
途中で腰を引くのは…
よくないぞ…❤
『おあずけ』を
喰らってるようで…
もどかしく
なってくる…❤
もう一度だ…❤
今度はしっかり…
一番奥に…❤
ハァー…
ハァー…
ハァー…
それからのことは
あまり記憶が定かでないが…

『…もう知りませんよ』
とためらいながらも
言った彼の言葉を皮切りに

私の求めていた肉棒が蜜壺に
突き沈み込まれる…
たまらず声が出る。
犬のような喘ぎ声…

震える尻肉に
叩きつけられる腰

自分の雄を誘うように
下品なほど肥大した乳房が
交互に揺れ…

内側から腹筋を
捲られるような感覚

自分の喘ぎ声を
抑えようと口を噤む…

何度も何度も
彼を求め…
震えながら啼いて
鳴いて
哭いて

しかし…
噤んだはず口は、
いくつも年下の肉棒の快楽に
あっけなくこじ開けられ

彼の拙いながらも必死な
腰振りに膣肉を締め上げて
必死にその子種を
欲しい…欲しい…と
おねだりをする…

一度、抜かれそうになるほど必死に尻を相手の腰に伸ばす…

離される感覚は切なく、甘えるような声を出してしまう…

けれど次の瞬間には、先に出されていた精液を押しやりながら、子宮口の一番奥に子作りノックをされ…

その衝撃を全身で受けながら、切なさを一気に満たされ、何度も何度も絶頂し…

耐えられずに、自分を彼の雌だと実感しながら…

その場に倒れ伏せて多幸感に打ち震える…

暫くしてから、顔を上げれば…そこに映るのは

余裕のない表情の可愛い『ご主人様』の顔…❤

そして…
待っていたソレが…
私の最大の絶頂を
引き連れて…

ビュブッ

ギチッ
ミチッ
ゴボッ
ゴボッ
ビチャ
ビチャッ
ゾクゾクッ
ビクッ
ドクッ
ドクッ
やって来る…❤
ドクッ
ドクッ
ビクッ
ドクッ
ビチャ
ゴボボボ…
ビクッ
ビュブッ
ガクッ
ガクッ

満足した…❤ おかげで発情期は乗り越えられそうだ…❤
では…ここからは愛する者同士の睦合いをしようではないか…❤
匂い付けの為にも最低でも十回はしてもらう❤
すまないが耐えてくれ❤
ええ…っ!?
そんなっ無理で
いつまで使っとる気だにゃ…
劇薬だったか…
うーむ…。
—7時間後…風呂場前。

奥付

モンスターガール グランド・ツアー アヌビス編

発行者	：	山羊の豚足
発行	：	山羊家豚足亭
発行年月日	：	初版、コミックマーケット９６ 2019年8月11日
連絡先(mail)	：	yagi.no.tonsoku@gmail.com
印刷所	：	協友印刷株式会社 きょうゆう出版　様
TwitterID	：	@yagi_no_tonsoku

山羊家 豚足亭
YGKTST